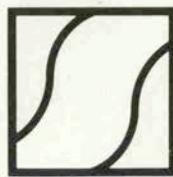


la boutique charmante

セリザワ

WINTER IN SPAIN
いま、おとなのエレガンスを

あなたが持つ
シャンパンの光こぼれる宵
本物だけ大切にしたセリザワの逸品
人々を魅了するでしょう



serizawa

本店=神戸市生田区三宮町3-18

元町バザー旅シリーズ

Italy



ネクタイの

元町バザー

神戸元町1番街 TEL 331-7031

東京 東急 百貨店

渋谷本店／日本橋店／吉祥寺店

イクリー 6 Scena



本格派の人々に愛されるヨシオカの靴



★靴のオーダーメード

ヨシオカ

神戸大丸前 TEL 331-5190

東急渋谷 TEL (03) 477-3436

東急日本橋 TEL (03) 221-0511

東急吉祥寺 TEL (0422)21-5369

パルコ池袋 TEL (03) 987-0577



北野町

坂本勝比古

（神戸市教委社会教育部文化課主幹）

北野町界わいには、古い
神戸の面影が其処ここに遺
つていてる。

風雪を経た異人館のたた
ずまいや、赤煉瓦積みの堀
年輪を重ねた庭木のみどり
が、このあたりの都市空間
をゆたかにしている。

しかしその異人館も年ご
とに姿を消し、かわりに新
しいマンションや、建売り
住宅がつきつきと建てられ
ている。都市発展のプロセ
スとして止むを得ない現象
であるといつてしまえば、
それまでであるが……。

近代都市神戸の個性ある
発展を印象づける得がたい
遺産として、大切に考えて
いきたいものである。

神戸百景

61

カメラ
小山 保

神戸大学

小倉宗夫
〔小倉産業㈱社長〕



阪急六甲駅から一気に歩いて、たっぷり二十分、晩秋の淡い日ざしに体がしつとりと汗ばむ。正門からの急な石段の彼方、やや黄ばんだ楠木の大樹の間に満い色の神大本舎がその姿を現わす。かつては見馴れた眺めである。だがこの威圧感は何か来るのだろう。それは矢張りこの学府の持つ七十年の歴史、その伝統の重みであろうか。

神戸高等商業学校、神戸商科大学、神戸経済大学、そして神戸大学への道を歩んだこの大学、それは我が国学制の歴史そのものである。今や学園周間に昔日の面影はない。高層住宅が林立し、自動車が縱横に疾走する。だが校内は不思議に静かだ。風にそよぐイチヨウの梢、その間から望まれる六甲の山なみ、それ等は昔変わぬまなざしを以てこの学府に
立つ若者
達を見守つ

摩耶阜頭

なかけんじ
詩誌『輪』同人



神戸百景

63

のではない
ことを証明
している。

三宮方面から税関前・第六突堤をへて この阜頭の中央で下車すると 人気のない広場に豊かな色彩のコントナ群が整然と配列され停泊中の外国船から華奢な体軀の褐色の船員が 淋しい風景を見下している。さすが大神戸港も東端という感じであるが 沖には防波堤やポートアイランドも見え 港の一環としてさしたる異和感もない。しかし背後をふりかえると そこはもう摩耶山からつづく神戸東部の沖合いなのだ。背山から見る摩耶阜頭は ヤジロベエ橋によつて画然と港の首都から切り離され あの突堤の先端に立つたときの首都にせまる茫茫の想いがゆえなきものではないことを証明している。



須磨水族館

春川和子
（ラジオ関西プロデューサー）

戸百景

64

ガラスの
水槽の中の
魚には、奇妙な親近感があ
る。

ラジオ番組の制作という
「密室芸能」に従事してい
るせいであろうか。

カラフルでサイケなスー
ツのモンガラハギや、そろ
いのゆかたでひとおどりと
いつたシマダイの群、そん
な魚たちをみていると、小
学生のすさまじい喚声につ
つまれながらも、なぜか私
の心は和むのである。
水族館には、なんだつて
ダチヨウをかうんだい、と
いつたシラケた気分が稀薄
なのもいい。

蓬来峠

日本山岳会評議員

神戸百景

65



年少の頃には好んで六甲の谷々をあさり、六甲は表も裏も、殆ど歩かないところはない程に登つた。裏六甲中の荒谷で最も大きな谷である座頭谷には幾度となく登りつめたのだった。

この座頭谷の入口の西側一帯をいつの頃よりか蓬来峠と名づけたものらしい。

昭和の初期頃からの名称ではないかと思う。古い地図にはどうも蓬来峠の名は見つからない。しかしこの座頭谷入口の面影に露出されている峨峨たる荒山の風貌は蓬来の名にふさわしく、しかも近年、この付近の荒しい山容が時代劇映画に合うのか、度々ロケに使われたり、また若いい人達の手近なロッククライミングの遊び場に、ピクニックに、盛んに利用されるようになり、恰好のハイキングの場として、一躍蓬来峠の名が有名になつたようだ。

須磨浦の月

畠マス子

〔日本現代工芸美術会友〕

神戸百景 66



名月のよる、月見る月は
この月の月などとつぶやき
ながらそうつと我が家の窓
を開けてみる。さすが美しい！ 中天に浮かぶ冴えた
月遠くきらめく海、その中
に灯をともした客船がいく
つか停止したように浮かぶ、
そして山の方は暗いが月の
光を浴びて何かを語りかけ
る。海と山と月、疲れた心
をどんなに慰めてくれる
ことか。かつては一の谷の
合戦の歴史の地、今では公
害多く名残り少くなつた白
砂青松の浜も、渋滞勝ちの
二号線も今宵ばかりはすっ
ぱりと包んで月の光は昔も
今も変わらず黙つて静止す
る。

「こんなよい月を一人で
見て寝る」と須磨寺の石碑
にあるが、なる程と私をう
なづかせる。